



バーゼルワールド2014

パテック フィリップ ジュネーブ
2014年3月

パテック フィリップ・カラトラバ・ハイジュエリー4895Rモデル： 永遠の女性像へのオマージュ

パテック フィリップの新しいカラトラバ・ハイジュエリー4895Rモデルは、カラトラバのクラシックで優美なフォルムとダイヤモンドの燦然たる輝きが渾然一体となったタイムピースである。それはパテック フィリップの誇る時計製作技術、ケース製作技術、ジュエル・セッティング技術、そしてデザイン部門の創造性の比類のない融合の賜物といえよう。

ハイジュエリーの芸術

4895Rモデルのダイヤモンドをセッティングした優美な18金ローズゴールドのケースは、1932年に発表され、パテック フィリップの最も著名な創作デザインのひとつである、カラトラバ・コレクションのクラシックなラウンド型のフォルムを基本としている。162個のバゲットカット・ダイヤモンド（合計約5.62カラット）が、ドレープのように文字盤の周囲を最大5重に取り巻き、12時位置と6時位置で美しい曲線を描いて終了している。バゲットカット・ダイヤモンドの各々の列は《クロー・セッティング》によりローズゴールドのケースに固定されており、ローズゴールドの温かみのあるトーンがダイヤモンドの純白の輝きと繊細なコントラストを生み出している。このセッティング方法は、ダイヤモンドのきわめて厳格な選別を必要とする。ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンド（純白で内包物なし）であることはもちろん、完璧なサイズ、フォルム、カットが要求されるのである。これらの条件を完璧に満たして初めて、非の打ち所のない全体のハーモニーが生まれる。ダイヤモンドの選別の任に当たるのは、パテック フィリップの宝石鑑定家である。数時間、時には数日間にわたり数百個のダイヤモンドをルーペで検査し、並べ直し、最終的にエレガントなドレープを形作る162個のダイヤモンドを選び出す。これに比べれば、18金ローズゴールドのピンバックルにセッティングされる20個のバゲットカット・ダイヤモンド（合計約0.72カラット）の選別は容易である。新しい4895Rモデルは、ブラック文字盤と完璧にマッチするブリリアント・ブラック、ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンドを装着している。

セッティングされるに先立ち、各々のダイヤモンドは、枠の中に完璧に収まり、隣り合う石と隙間なく密着するよう、図面と精密な寸法に基づき、個別に再カットされる。ハイジュエリー・タイムピースの価格はセッティングされたダイヤモンドの価格のみで決まるのではなく、その大部分は創作デザイナー、宝石鑑定家、カッター、ジュエラー、舞台裏における数週間にわたる作業によるものである。その忍耐強い努力があって初めて、幸運なオーナーは、この世のものとも思われぬ美しさに溢れたタイムピースを手首に着用することができるのである。

文字盤製作の芸術

4895Rモデルの文字盤はピュアで洗練されたスタイルを持っている。その漆黒のカラーは、純白のダイヤモンド、温かみのあるローズゴールドの光沢と魅力溢れるコントラストをなしている。文字盤は、ラッカーを12回にわたり塗り重ねてつくられる。もちろん各回の塗装に当たっては、どんな微細な埃も混入することは許されないため、作業は完



《報道資料》 ページ 2

全な無塵環境下で行われる。各層を塗布した後は完全に乾燥させ、不純物の混入がないかを厳重に検査し、次の層を塗布する。次いで時・分針の軸が通る孔と12個のインデックスをかきしめて取り付けのための24個の微細な孔が注意深く開けられる。2面のファセットを施したドフィース型時・分針、および3面のファセットを施したアロー型インデックス（いずれも18金ローズゴールド）の製作にも、細心の配慮と長い時間がかかけられる。ピュアなフォルムと鋭い縁を持つこれらの構成部品には、どんな微細な欠陥も許されず、欠陥品はスクラップとなる。パテック フィリップにおいては文字盤、インデックス、指針の製作にいかなる努力も厭わない。これらは精細な芸術の域にまで高められているのである。4895Rモデルの文字盤の製作には、多くの時計の製作に必要な全工程以上の手間と時間がかかけられているのである。

時計製作の芸術

ケース製作、ジュエル・セッティング、文字盤製作の完璧さを追求するあまり、パテック フィリップにおける中心的な活動を忘れてはならないだろう。それは時計製作である。新しい4895Rモデルには、パテック フィリップの手巻キャリバー215が搭載されている。この伝説的なキャリバーは、今から約40年前に創作されて以来、絶え間ない改良が続けられてきた。その精緻な仕上がりは、サファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞することができる。優雅なカーブを描く輪列受け、香箱受け、真っ直ぐなテンプ受け、およびこれと独立したガンギ受けには、著名なコート・ド・ジュネーブ装飾が施されている。受けの縁にはわずかに丸味を帯びた面取りが施され、念入りにポリッシュ仕上げされている。受けと歯車の隙間から見える地板は、全面に重なり合った無数の円形模様からなるペルラージュが施されている。テンプ振動数は28,800振動（片道）／時（4 Hertz）である。パテック フィリップ・ジャイロマックス・テンプと、ハイテク素材Silinvar[®]による特許取得のSpiromax[®] 髭ぜんまいを備える。Spiromax[®] 髭ぜんまいの優れたアイソクロニズム（等時性）、軽量性、耐磁性、およびパテック フィリップ独自の形状により、高い計時精度と安定性を達成している。受けに刻印されたパテック フィリップ・シール（二重のPをかたどった金の紋章）認定規準に準拠した、日差-3～+2秒（ムーブメント20 mm以上の場合）という究極の計時精度を誇る。

パテック フィリップにおける文字盤製作の伝統

文字盤は時計の《顔》に例えられ、タイムピースの価値を構成する重要な要素となっている。時計製作の世界において文字盤メーカーが最も追い求められる専門能力のひとつであったのはこのためであり、パテック フィリップは、常に文字盤メーカーと密接な関係を維持してきた。1930年代初め、創業家族に後継者がいなかったため、パテック フィリップが社を売りに出した時、スターン兄弟文字盤会社が最も有力な買収候補者のひとつであった。当時スターン兄弟文字盤会社（所在地ジュネーブ）はスイスを代表する文字盤製作会社であった。パテック フィリップはスターン兄弟文字盤会社の顧客であり、両社のオーナーは知り合いであり、相互に信頼し合う仲であった。こうして1932年、スターン兄弟はパテック フィリップの経営を受け継ぐことになったのである。以後パテック フィリップは、1932年以來の製品が示すように、クロワゾネ七宝、七宝細密画、ギョシェ装飾、ジュエル・セッティング、さらに最近では木象嵌などの文字盤製作における偉大な芸術を保護育成し続けてきた。パテック フィリップの経営者として第4世代目であるティエリー・スターン現社長は、文字盤製作のDNAと時計製作のDNAを共に受け継いでいることをはっきりと表明している。それはパテック フィリップが自社文字盤製作工房を所有していることにも明らかである。新しいカラトラバ・ハイジュエリー4895Rモデルを装飾する洗練された文字盤も、この製作工房から生み出されるのである。



技術仕様

カラトラバ・ハイジュエリー4895R-001モデル、18金ローズゴールド仕様

ムーブメント	キャリバー215 手巻ムーブメント
直径：	21.90 mm
厚さ：	2.55 mm
部品総数：	130個
石数：	18石
連続駆動可能時間：	最小44時間
テンプ：	ジャイロマックス
振動数：	28,800 振動 (片道) /時 (4 Hz)
髭ぜんまい：	Spiromax®
髭持ち：	可動式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・引き出した位置：時刻合わせ ・押し込んだ位置：巻上げ
表示：	時針、分針

外装

ケース：	18金ローズゴールド、162個のバゲットカット・ダイヤモンド付 (合計約5.62カラット) サファイヤクリスタル・バック 防水ケース、防水リュウズ
ケース寸法：	直径：34 mm 長さ：51.80 mm (ラグ～ラグ) 横幅：35.90 mm (3時～9時、リュウズを含む) 厚さ：10.95 mm 厚さ：8.20 mm (サファイヤクリスタル・ガラス～サファイヤクリスタル・バック) ラグ間隔：18 mm
文字盤：	ブラック塗装、12層 12個の18金ローズゴールド植字アロー型アワー・インデックス (3面のファセット) 18金ローズゴールド・ドフィーヌ型時・分針 (ポリッシュ仕上げのファセット)
ダイヤモンド：	162個のバゲットカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドをセッティングしたドレープを思わせるケース (合計約5.62カラット) 20個のバゲットカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドをセッティングした18金ローズゴールドのピンバックル (合計約0.72カラット)
バンド：	ラージ・スクエアのシームレス・アリゲーター・バンド、カラーはブリリアント・ブラック